

平成 19 年度 「精神障害者地域移行に関するモデル事業」

# 研修会

於：調布市こころの健康支援センター

## 第 1 回 新体系の会計について



講師 : 大森 正路 氏  
参加者 : 計 47 名

平成 19 年 9 月 29 日 (土)

新体系に移行した就労支援事業所の会計についての研修会ということで、一見すると「地域移行」から離れたテーマと感じられるかもしれませんが、講師である大森正路氏の「就労支援事業の会計は、現場を知る職員が行うべきだ」という意見から、参加された多くの方々が、今回の研修について自立支援法のもとでの事業所運営に欠かせないテーマであることを実感されたのではないのでしょうか。利用者の皆さんを地域で支える事業者の活動のうち、直接のかかわりが最も大切なことではあ

りますが、地域の受け皿として「会計」という土台を安定させることがいかに重要であるかを改めて認識することのできる研修会となりました。

(濱井)

## 第 2 回 バーンアウトを防止するためのスーパーバイズ

平成 19 年 10 月 26 日 (金)

「スタッフのバーンアウト(燃え尽き症候群)をいかに防ぐか」という、やや重たいと感じるテーマでしたが、講師のヘネシー澄子先生のあたたかい人柄もあり、終始とても和やかで楽しい雰囲気の中で講義は行われました。グループワークによる話し合いを中心に、日頃抱えている悩みや苦勞を語りあったり、その解決策をみなで考えたりしました。

とてもリフレッシュできた研修会でした。

(久保田)



講師 : ヘネシー 澄子 氏  
(関西学院大学 客員教授)  
参加者 : 計 25 名



## 第3回 精神保健福祉士の関係力と創造性



平成20年 1月12日(土)

地域社会における当事者・専門職スタッフ・一般市民のより良い関係性＝「協働」を一つのキーワードとし、新たなサービスやプログラムを創造し、循環させていくための方法や施策について考えることをテーマとして行われました。グループディスカッションでは、「(自分が働いている)地域の課題」や「実践の難しさ」について、参加者同士が意見を交換することができました。「色々な人と話すことができ、とてもよい刺激になった」との感想が聞かれ、有意義な研修となりました。

(遠藤)



講師 : 石川 倒覚 氏

(大正大学 人間学部 人間福祉学科 教授)

参加者 : 計45名

## 第4回 利用者の可能性を拓けるケアマネ技術と地域生活支援



平成20年 1月26日(土)

「ストレングス視点」やその人らしさを優先した「利用者理解」など、利用者の可能性を拓けるケアマネージメントに必要な発想のポイントを学びました。グループワークを中心にした講義が展開され、他人の考えや発想を知ることによって、今まで自分の中にはなかった視点に気付かされました。

終始和やかな雰囲気の中で講義が進み、楽しく、実りの多い時間を過ごすことができました。

(遠藤)



講師 : 佐藤 光正 氏

(駒澤大学 文学部 社会学科 准教授)

参加者 : 計41名

